

八戸市総合計画策定委員会 第3回専門部会

議事概要

< 目次 >

■ 政策1 専門部会	1～4 ページ
■ 政策2 専門部会	5～8 ページ
■ 政策3 専門部会	9～12 ページ
■ 政策4 専門部会	13～15 ページ
■ 政策5 専門部会	16～19 ページ
■ 政策6 専門部会	20～26 ページ

■ 「政策1」専門部会

日 時：令和3年8月31日(火) 14:00～15:00

場 所：八戸グランドホテル3階 MIYABI (本館3階 議会第一委員会室)

出席委員：6名

平間恵美委員(部会長)、田頭順子委員(副部会長)、石橋伸之委員、今川和佳子委員、小笠原嘉委員、水野眞佐夫委員

欠席委員：0名

ワキンググループ：市民連携推進課(佐々木副参事)、文化創造推進課(榊原副参事)、スポーツ振興課(和島副参事)、美術館(三浦主幹)、長根屋内スケート場(川村主幹)、こども未来課(柏原副参事)、子育て支援課(大久保副参事)、保健所健康づくり推進課(山村参事)、こども家庭相談室(宗石副室長)、教育総務課(磯島副参事)、学校教育課(蓬田副参事)、教育指導課(日向端副参事)、社会教育課(角濱副参事)、総合教育センター(松橋副所長)、こども支援センター(種子副所長)、図書館(磯嶋副館長)、博物館(下村副館長)

事務局：政策推進課(森林参事・菱倉主事)
(株)エックス都市研究所 松本

次 第：

- 1 開会
- 2 審議案件

○第7次総合計画（二次案）の第5章について

3 その他

4 閉会

2 審議案件

(1) 審議案件に関する主な意見：

<全体について>

- ・地域が一体となって取り組む政策となっており、今までにない考え方かと思うため、その考え方を意識した施策となると良い。
- ・施策を明確化するには、どのように地域と一体となって取り組むべきか具体的なイメージをもつと良いのではないかと。

<施策の方向性 I 「次代を担う「ひと」を育む」について>

(全体について)

- ・教育環境の土台を整えようとしているのはわかるが、各施策が具体性に欠ける。子どもの成長のステージに応じた、課題が何で何に取り組むべきかを事業案として記載すべきである。

(施策1. 結婚支援の充実について)

- ・青森県では、出会いをサポートするサイト「あおもり出会いサポートセンター」があるため、参考資料2事業一覧のP1事業No.719「はちのへ縁結びプロジェクト事業」については、青森県と連携しながら取り組んでいただきたい。

(施策2. 妊娠・出産・子育て支援の充実について)

- ・妊娠・出産・子育てといったライフプランについて、教育や福祉の面でも中学校・高校といった早い段階から積極的に考える機会を持つことができるよう、啓発の文言を記載いただきたい。

(施策3. 就学前教育の充実について)

- ・保育所においてもトータルで就学前の教育を行っているため、(3)役割分担と(4)施策の内容に「保育所」を追加していただきたい。

(施策4. 小・中学校教育の充実及び施策5. 高等学校教育・高等教育の充実について)

- ・「ひと」を育むという基本的な考え方は良い。
- ・施策4の目指す姿における「郷土を愛し」や、施策5の目指す姿における「郷土に愛着を持つ」といった、郷土愛を育むことは非常に大切であり、いずれ子どもたちが進学や就職により八戸市に住み続けられなくなったとしても郷土愛を持っていることで八戸市に戻ってくることもあるため大事である。郷土愛を育むことについて、事業に反映されているか見えにくい。
- ・コロナ禍で、子どもたちは地域の人と関わる機会が減り、心を育む機会が少なくなっている。そのため、社会情勢を踏まえ、地域で活動している方々と触れ合う機会を「地域連携」という言葉で終わらせるのではなく、より強くして意思表示すべきである。文言は検討いただきたい。
- ・施策5について、コロナ禍により様々な方法での学び方が必要とされており、各大学でも課題となっているなかで、高等教育機関との連携は非常に大切である。(4)施策の内容の「ま

た、」以降について、「高等教育機関との連携強化」からもう少し踏み込んだ文言にできないか。

- ・施策5について、「高等学校教育・高等教育の充実」とあるが、施策に「連携」という文言が入るのではないか。現在、八戸地域学の連携講義が開設できないか審議するなど、高等教育機関4校が連携して高等教育の充実を図っていく方向となっているので、検討いただきたい。

<施策の方向性Ⅱ「文化・教養・スポーツを通し人生を豊かにする」について>

(全体について)

- ・会議資料5二次案のP77(2)未来予測について、「高齢化の進行により、文化芸術活動の担い手の減少が予想される」とあるが、八戸市文化協会等では高齢でも元気に活動されている方々が多い。そういった高齢者と若い世代との交流の場をつくり、文化を通じてアクティブシニアがもっと元気になることは、前向きで良いことだという認識を持っていただきたい。

(施策2. 文化芸術の振興について)

- ・参考資料2事業一覧のP24 事業 No.125 写真のまち八戸事業について、写真だけでなくそのほかの芸術活動があるなかで、写真だけが取り上げられていることに違和感がある。表現については検討が必要であるが、いずれの芸術分野も盛んである。
- ・参考資料2事業一覧のP28 事業 No.126 八戸ポータルミュージアム事業について、はっちの開館から10年が経ち、取組内容にある文化芸術の振興による地域振興や中心市街地の活性化という成果も一定程度あるが、一番大きな成果として、はっちが市民の活動拠点となり、元々盛んだった市民の文化活動がより促進されたことがある。はっちの職員等が市民活動をサポートし、市民が活動を作ってきたというニュアンスを具体的に出した方が良い。市民が主役となった活動の拠点となっていることを特徴として記載していただきたい。
- ・若手アーティストや若手活動家が主役になるような、若手の育成や支援についても施策に入れていただきたい。
- ・コロナ禍で観劇や音楽鑑賞等の文化芸術に触れる機会が減っており、殊更、子どもは保護者が文化芸術に興味があれば触れる機会がなく、学校教育のなかでも難しくなっている。全ての子どもが平等に文化芸術に触れる機会をつくることのできるのは、学校教育の現場であるため、どういう機会を設けるのか選択が難しいとは思いますが、年間行事の中で触れる時間を設けていただくことを期待している。

(施策3. スポーツの振興について)

- ・八戸市では、プロスポーツのうち八戸市を拠点とするチームスポーツを応援しているようだが、個人スポーツ含め、八戸市出身のスポーツ選手についても市民や学生に周知していただきたい。
- ・施設整備だけでなく、スポーツにより地域をどう盛り上げていくか等、地域を一体的に見ながら施設を整備し、施策を決めていくことが重要である。高等教育機関による支援も可能であるため、検討を行う際には声をかけていただきたい。既存のスポーツ施設を活用しながら、八戸市をいかに盛り上げるかアイデアを提案させていただきたい。
- ・長期的な視点で計画を立てていくことが重要だと考える。

(2) 審議の概要

<全体について>

○各施策において、「地域が一体となって取り組む政策」という考え方を意識したものにする。

<施策の方向性Ⅰについて>

○各施策が具体性に欠けるため、子どもの成長ステージに応じた事業案を記載した方がよい。

(施策1. 結婚支援の充実について)

○事業 No. 719「はちのへ縁結びプロジェクト事業」は、青森県の既存事業「あおもり出会いサポートセンター」との連携が必要。

(施策2. 妊娠・出産・子育て支援の充実について)

○中学校・高校に対する妊娠・出産・子育て等のライフプランの啓発について、記述を追加してほしい。

(施策3. 就学前教育の充実について)

○(3) 役割分担と(4) 施策の内容に「保育所」を追加。

(施策4. 小・中学校教育の充実、施策5. 高等学校教育・高等教育の充実)

○事業において、郷土愛を育むことが含まれていると読み取れるよう記述の工夫が必要。

(施策4. 小・中学校教育の充実について)

○子どもたちの心を育む機会として地域の人と関わる機会の重要性を示すため、「地域連携」よりも強い文言を検討してほしい。

(施策5. 高等学校教育・高等教育の充実について)

○施策名称に「連携」の追加を検討してほしい。

○(4) 施策の内容の「高等教育機関との連携強化」について、踏み込んだ内容の記述を検討してほしい。

<施策の方向性Ⅱについて>

(全体について)

○(2) 未来予測について、高齢化をネガティブに捉えるのではなく、文化を通じてアクティブシニアが元気になるという前向きなものと捉えてほしい。

(施策2. 文化芸術の振興について)

○事業 No. 125 写真のまち八戸事業について、いずれの芸術分野も盛んであることを踏まえ、再度検討してほしい。

○はっちは市民が主役となった活動拠点という記述の追加。

○若手アーティストや若手活動家の育成・支援の施策が必要。

○コロナ禍であっても学校教育の中で文化芸術に触れる機会が必要。

(施策3. スポーツの振興について)

○八戸市出身のスポーツ選手について市民や学生に周知が必要。

○地域が一体となってスポーツを盛り上げる視点と長期的な視点に立った施策の検討が必要。

■ 「政策2」専門部会

日 時：令和3年8月31日（火） 14：05～15：00

場 所：八戸グランドホテル2階 トパーズ

出席委員：4名

武輪俊彦委員（部会長）、澤藤孝之委員（副部会長）、熊谷拓治委員、吉田博充委員

欠席委員：3名

上村康浩委員、衣川正剛委員、水越善一委員

ワキンググループ：スポーツ振興課（岡田主幹）、長根屋内スケート場（藤谷副参事）、商工課（角岸副参事（代理：新井主査）・下斗米参事）、産業労政課（石塚副参事・上館副参事）、観光課（竹井副参事）、農政課（山崎主幹）、農林畜産課（玉川副参事・柳沢副参事）、農業経営振興センター（中山副参事）、中央卸売市場（根岸次長）、水産事務所（河原木副参事）

事務局：政策推進課（大堀主査、中村主査）

（株）エックス都市研究所 山下

次 第：

- 1 開会
 - 2 審議案件
○第7次総合計画（二次案）の第5章について
 - 3 その他
 - 4 閉会
-

2 審議案件

（1）審議案件に関する主な意見：

<施策の方向性Ⅰ「経済的な価値を生み出す」について>

（資料1（2）No.6への対応について）

- ・確かに地球温暖化については、水産業、農業においても考えなくてはならない。1年で漁業を取り巻く環境の変化が大きいため、二次案の文章を書いた頃の漁業とは様子が変わってしまった。記載している二次案の内容を深める必要がある。
- ・八戸港の水揚げが日本一の頃に比べて、今の状況は、海外の漁場を失ったこともあるが、温暖化により海流が変化したことにより、漁場に魚が少なくなった。三陸沖では、寒流と暖流が交差して魚がたくさん獲れたが、温暖化により、暖流は南の方へ、寒流ははるか遠くへ行ってしまった。三陸には魚がほとんどいなくて、漁場ははるか遠くへ行ってしまった。はるか遠くへ船を出して魚を捕るのは採算が合わない。イカ釣りも減船している。今後どうやって八戸の水産業を支えるか。水産業は八戸の基幹産業だったが、今後もそれだけの価値があるのか不安である。今後どう対応していくか。
- ・No.6の5行目にある「つくる漁場」というのは「つくる漁業」の間違いではないか。八戸港の周辺は、かつては何もない閑村だったが、沿岸を埋め立て大きな船を導入して、どんどん魚を捕ったことで水産業が盛んになった。現在のような状況になり、今後沿岸をどうしていくかが課題ではないか。埋め立ててしまった沿岸をどう再生していくか。そこで「つくる漁

業」が重要になるが、今の地形でどこにいけすを作っていくのか。陸上の養殖を含め、学校や事業者、行政が協力して、成功している事例はある。その規模で考えていかないと、今後は追いつかないと考える。危機感を持ってもう一度洗いなおす必要がある。付属資料 47 ページに「No184 産学官共同研究開発支援事業」とあり、こういうものをイメージしている。具体的にどう展開していくかが大変大事だと思う。以前、イカが大漁で仕分けにも手が回らなかった時、八戸工業大学に相談して、良い提案をしていただいた。

- ・養殖については既に研究しているところもあると思うが、まだ展開できていない面もあるため、本文中は「研究する」という内容で追加してはどうか。

(資料1 (2) No. 10 への対応について)

- ・三陸自動車道の開通により、今後どのような影響が出てくるのかまだ不明だ。いかに八戸に物が集まる仕掛けをつくるかが重要であり、倉庫群のようなものが必要になるのかもしれない。航路がたくさんあっても、八戸に物が集まらなると単なる通過点になってしまう。八戸に物が集まって、世界や国内に流通する仕掛けが必要である。苫小牧では、北海道の玄関口ということもあり、倉庫が充実している上、去年の春には5階建ての冷凍冷蔵倉庫がオープンした。道内の農畜水産物を集めて倉庫内で加工までして、流通に出している。全農とタイアップした大規模な取組のため、八戸ですぐに同様の取組をすることはできないとしても、せつかく高速道路ができるのであれば、検討してもよいのではないか。
- ・倉庫群の立地に対して、市がどういう施策をするのかはわからないが、補助制度があると民間が動きやすくなるのではないか。
- ・国土交通省の補助金を活用することもある。補助金を活用しながら、倉庫群の立地などにより拠点性を高めていく必要がある。
- ・温度管理が可能なリンゴ保管用の倉庫があれば、八戸にリンゴが集まり、一年かけて八戸から流通させる、ということも考えられる。そういうポテンシャルがあるのではないか。
- ・どのような施策が必要なのか、現状ではまだ具体的なイメージはないが、倉庫等のインフラがあれば更に拠点性を高めることができる。

(資料1 (2) No. 19 への対応について)

- ・「穀物に関して、国内でも穀物を作れるように」というのは、対応は難しいと考える。海外との生産性の違いから、国内産はコストが高いため、採算が合わず、かなりの政策的な下支えが必要と考える。

<施策の方向性Ⅱ「販路・消費を拡大する」について>

(施策4. 販路開拓の促進について)

- ・ポートセールスは各港がやっているのだから、八戸も継続してほしい。
- ・販路拡大のためには、八戸の知名度を上げていくことが重要である。八戸都市圏交流プラザを活用して積極的に実施していくとよい。
- ・海外向けの販路ということであれば、大きい倉庫を活用し、商品の流れを把握した上で、リアルタイムに輸送できる仕組みが重要である。新潟では、年間を通じてキノコを販売しているが、季節性のもので、オフシーズンには売れないようだが、人を雇っているから売ることができる、という状況を聞いた。農作物の流通については他でも苦労しており、売り方が重要だと感じる。
- ・商品のブランド化も重要だと考える。
- ・かつて、物流についてはビジネスモデルとして、大きな冷凍倉庫のそばに農畜水産の加工所

を誘致し、物流拠点を置くという海外事例を八戸でも出来ないか検討したようだが、そのあたりも改めて検討してはどうか。

<施策の方向性Ⅲ「働く場と働きやすい環境をつくる」について>

- ・企業誘致について、八戸北インター工業団地をはじめ誘致企業が増えてきて、市が頑張っていることがわかる。継続して頑張ってもらいたい。
- ・中小企業・小規模事業者の振興について、二次案の文章中に必要な内容は記載されており、必要な要素は押さえられている。
- ・企業誘致について地元経営側から言うと、八戸では人手不足の状況が続いており、人が足りないのに補助金を使って新しい企業が立地すると、労働者の取り合いになる。新しい企業が来るというのは、働く方にとっては選択肢が増えてよいことなのかもしれないが、労働者が確保できなくなると労働力が足りなくなり、倒産するという不幸な状況となる。そうならないように中小企業支援に力を入れる必要がある。二次案の中に「中小企業支援」についても記載があるので期待したいが、「企業誘致」というと少し抵抗を感じる。
- ・震災から10年が経ち、「生業づくり復興特区」による税制上の優遇措置について、被災三県は継続しているようだが、青森県や茨城県は外された。復興という面では一段落したかもしれないが、できればあれぐらいのメニューを揃えてほしい。
- ・今後も東日本大震災と同じ規模の災害が来ると言われているが、市の計画ではどのように対応していくのか。
- ・漁船に関しては、外国人の労働力をあてにしないと船が動かない。個々の船主に任せるのではなく、水産会館レベルの受入体制で取り組まないとやっていけないのではないかと。人材の問題は本当に悩ましい。

(2) 審議の概要

<施策の方向性Ⅰについて>

(資料1(2) No.6への対応について)

- 1年で漁業を取り巻く環境の変化が大きいため、二次案の内容を深める必要がある。
- 温暖化により三陸沖の海流が変化し、魚を捕るのは採算が合わない。八戸の基幹産業である水産業について今後どう対応していくか検討が必要である。
- 「つくる漁業」として、沿岸養殖や陸上養殖を含め、今後どこに生簀を作っていくのかを検討するとともに、産学官が連携して取り組むことを検討する必要がある。付属資料47ページ「No184 産学官共同研究開発支援事業」とあり、こういうものをイメージしている。具体的にどう取り組んでいくかが重要である。
- 養殖については、本文中には「研究する」という内容で追加してはどうか。

(資料1(2) No.10への対応について)

- 三陸自動車道の開通後、いかに八戸に物が集まる仕掛けをつくるかが重要であり、倉庫群のようなものが必要になるのかもしれない。八戸に物が集まって、世界や国内に流通する仕掛けが必要である。
- 倉庫群の立地に対して、補助金があると民間が動きやすくなるのではないかと。補助金を活用しながら、倉庫群の立地などにより拠点性を高めていく必要がある。
- どのような施策が必要なのか、現状ではまだ具体的なイメージはないが、倉庫等のインフラがあれば更に拠点性を高めることができる。

(資料1(2) No.19への対応について)

- 「穀物に関して、国内でも穀物を作れるように」というのは、対応が難しいと考える。海外との生産性の違いから、国内産はコストが高いため、採算が合わず、かなりの政策的な下支えが必要と考える。

<施策の方向性Ⅱについて>

(施策4. 販路開拓の促進について)

- 販路拡大のためには、八戸都市圏交流プラザを積極的に活用し、知名度の向上が必要である。
- 海外向けの販路ということであれば、大きい倉庫を活用し、商品の流れを把握した上で、リアルタイムに輸送できる仕組みが重要である。
- 商品のブランド化が必要だと考える。
- 大きな冷凍倉庫周辺における物流拠点について、改めて検討してはどうか。

<施策の方向性Ⅲについて>

- 企業誘致について、市が頑張っていることがわかる。継続して頑張ってもらいたい。
- 中小企業・小規模事業者の振興について、二次案の文章中に必要な内容は記載されており、必要な要素は押さえられている。
- 企業誘致について、人が足りないのに新しい企業が立地すると、労働者の取り合いになる。そうならないように中小企業支援に力を入れる必要がある。
- 震災から10年が経ち、「生業づくり復興特区」による税制上の優遇措置について、できれば同様のメニューを揃えてほしい。
- 漁船に関しては、外国人の労働力をあてにしないと船が動かない。個々の船主に任せるとはではなく、水産会館レベルの受入体制で取り組まないとやっていけないのではないか。

■ 「政策3」専門部会

日 時：令和3年8月31日（火） 14：00～15：00

場 所：八戸グランドホテル2階 ローズコート

出席委員：5名

類家 伸一委員（部会長）、熊谷 俊一委員（副部会長）、於本 正委員、川本 菜穂子委員、
坂本 久美子委員

欠席委員：0名

ワ－キンググループ：市民連携推進課（藤井主事・田中主事）、福祉政策課（中嶋主幹）、障がい福祉課（向平主幹）、保健所 保健総務課（（欠）山本副参事）、保健所 健康づくり推進課（田端参事）、保健所 保健予防課（（欠）見附主幹）、保健所 衛生課（（欠）林上副参事・木村主幹）、高等看護学院（大野主幹）、国保年金課（関向参事・鈴木主幹）、防災危機管理課（柳町副参事）、くらし交通安全課（中村副参事・山内副参事）、環境政策課（市川副参事・（欠）知野主幹）、環境保全課（大里主幹・氣田主幹）、清掃事務所（飯塚副参事）、港湾河川課（大崎副参事）、道路建設課（大畑主幹）、道路維持課（夏堀副参事）建築指導課（間山参事・山川副参事）、教育指導課（（欠）石田主任指導主事）、社会教育課（杉山主幹）、市民病院（山下副参事）、八戸清掃工場（柳沢副工場長）、八戸リサイクルプラザ（藤田技師）、消防本部（田名部課長補佐）

事務局：政策推進課（山部技査・村井主査）

（株）エックス都市研究所 橋爪

次 第：

1 開 会

2 審議案件

○第7次八戸市総合計画（二次案）の第5章について

3 その他

4 閉 会

2 審議案件

（1）審議案件に関する主な意見：

<施策の方向性Ⅰ「生活環境を守る」について>

（施策1.衛生的な生活環境の保全について）

- ・食品ロスへの対策についての記述を充実してほしい。食品ロスは様々な分野での対策が必要であり、具体的な取り組みを示してほしい。
- ・食品ロスの削減は、108ページに記載した衛生的な生活環境の保全に関わる役割分担のうち、市民と事業者の役割に新たに追加している。本件は環境政策だけでなく、消費者意識の醸成とともに、フードバンクやフードドライブなどの関連する福祉行政との連携が必要と考えている。今年度、環境審議会において食品ロス削減の計画を策定する予定である。
- ・食品ロスは、食品加工業などの事業系ごみでも非常に多く、対策が必要である。子ども食堂やおすそわけ便への提供など、広く周知させることが必要である。学校での呼びかけをしているものの、まだ集まる量が少ないので、定期的な提供者を探すなど、市の広報活動の充実

を要望したい。

- ・子ども食堂への食材の提供は、お寺に寄せられたお供え物を使っている例もあり、活用してもよいと思う。
- ・家庭ごみの集積所は、網をかぶせるだけだとカラスに荒らされる。箱型の集積所を増やしていくことができないか。町内会が設置したくても市の補助金の枠が足りず、設置できないという話を聞く。
- ・箱型の集積所はカラス対策に効果があり、市では補助金を出して転換を進めている。設置場所の空間的な問題もあり、町内会と話し合いながら引き続き設置を進めていきたい。
- ・町内会の収支が厳しいため、箱型の集積所の設置が進まない。箱の形も町内ごとに様々で統一性がない。ある程度統一した形で町内会に提案してもらいたい。例えば、ネーミングライツを使い、企業広告による協力で設置している町内会もある。スピード感をもって箱型の集積所を増やしていくことを要望したい。

(施策2. 自然環境の保全について)

- ・廃プラスチックへの対策についての記述がない。船の座礁による油の流出などを含めて、海洋汚染の防止についての記述も検討してほしい。
- ・廃プラスチックについては、新法の制定も行われるなど、国として動きが出ている分野であり、現状においても海岸漂着物の回収・適正処理等を実施していることから、海洋汚染や生態系への影響に対する取組として、行政の役割に記載を追加することを検討したい。

(施策3. グリーン・循環型社会の構築について)

- ・八戸市の家庭ごみの分別は、他の先進都市に比べると大雑把なので、再利用を含めて家庭ごみの分別をもう少し細分化できないか再検討を願いたい。

<施策の方向性Ⅱ「住民の安全と安心を守る」について>

(施策1. 地域防災の充実について)

- ・地域防災については、子どもたちの参加も必要と考える。小学生の防災ノートづくりなど、小学生、中学生、高校生の年齢に応じた防災教育が必要である。東日本大震災では、ボランティアセンターでボランティアをしていた中高生たちが避難所でも活動したいと言っていた。地域における防災教育を行い、中高生が参加する地域防災を進めていくことが必要ではないか。小中学生による炊き出しなどの訓練も事例があると思うので検討してほしい。
- ・担当課が欠席のため、意見への対応は事務局預かりとしたい。

(施策4. 交通安全対策の充実について)

- ・八戸市でも飲酒運転しない・させないという条例が出来たが、出来ただけで市民には浸透しておらず、八戸警察署による飲酒運転の取締り件数は数十年単位で県内ワースト1位が続いている。一たび事故が起これば、全国的なニュースになり、八戸自体が否定される事態に繋がる可能性があるため、根絶しなければならない。
- ・市では飲酒運転の根絶に向けて、平成29年7月に八戸市飲酒運転を根絶するための社会環境づくり条例を制定し広く周知しているが、28年間県内ワースト1位の状態である。一方で飲酒運転の検挙者数は徐々に減少しているので、コロナ禍の様子を見ながらにはなるが、今後も街頭広報活動や啓発チラシの配付などを引き続き進めていきたい。
- ・道路に大きくなった雑草などがあり、伐採されずに安全な通行を妨げている。除草剤を使うなど、もっと効果的な対策を検討してほしい。
- ・道路の除草は、路線数も多く、予算にも限りがあるので、その都度行っているが追いついて

いない状況である。除草剤の散布は沿道やペットへの影響もあり難しく、伐採で対応している状況である。

- ・雑草の問題は、人件費を含め、非常に費用がかかる問題である。地域で行っているごみ拾いのように、地域の身の回りの管理として、町内会に協力してもらうことも検討してほしい。
- ・そういった体制の整備の構築について、今後検討してまいりたい。
- ・国道の除草や伐採を依頼したい場合については、どこに連絡すればよいのか。市に直接問い合わせてもよいのか。
- ・国道は基本的に国が管理しており、3 桁の国道は県が管理しているが、市に問い合わせてもらってもよい。
- ・地域の住民がスマホで道路の雑草や信号を見にくくしている樹木などの映像を撮影し、市に送ってもらうこともできる。市の対応では限界があり、市民からの情報提供も必要である。
- ・市では既に、「道路異状通報メール」という市民から道路の異状について情報を提供してもらうことを行っており、活用してほしい。

(施策5. 消費生活の安心確保について)

- ・高齢者のデジタルデバイド問題について、生活に関わる色々な情報のデジタル化が進んでいることから、年齢を問わず、デジタル教育が必要である。文言として明文化し、内容の充実を図ってほしい。
- ・現状においては消費者講座を多様なテーマで実施しているが、御意見いただいたテーマも加えて取組内容を充実させていきたい。
- ・消費者講座に来ていただくだけでなく、公民館単位の出前講座などで、スマホ教室など使い方を広めるような講座を身近なところで開催することはできないだろうか。トラブル対策だけでなく、今後、スマホの機能を使いこなすデジタル社会に対応できるような体験型講習会などの取組を希望する。
- ・消費生活の安心確保では、消費生活相談員の資格取得の促進とその支援を進めてほしい。それにより相談内容の充実を図ってほしい。
- ・多重債務者の相談は債務状況などに応じたきめ細かな対応を望みたい。また、高齢者・障がい者の消費者トラブルを防ぐため消費者安全確保地域協議会(見守りネットワーク)の連携強化を図り、消費者被害の早期発見と被害回復に務め、よりきめ細かい対応を進めることがSDGsの「誰一人取り残さない」の実践にもつながる。
- ・消費生活相談員の資格取得を支援するため、資格取得に関わる講習などを受けやすい職場環境を整えていきたい。
- ・多重債務者の相談は関係する部署の連携などにより、きめ細かく対応していきたい。

<施策の方向性Ⅲ「市民の健康を守る」について>

(施策2. 疾病予防・重症化予防の推進について)

- ・新型コロナウイルスなどの新興感染症や最近増えている結核などの再興感染症について、今後新たな感染症の発生も含めて、感染症が起こった際の対策を、現在の感染症の危機を踏まえて施策の中に言葉として盛り込んだらどうか。
- ・新型コロナウイルスへの対応や感染症対策については、先程の委員会や前回の委員会でも意見をいただいております、改めて総合計画の三次案において、事務局の方で調整させていただきたい。

(施策3. 地域医療の充実について)

- ・医療機関の適切な利用として、かかりつけ医の利用が記述されているが、医者にかからない健康な人にはかかりつけ医がない。地域医療として、町内の病院や診療所が役割としてその町内の希望する住民に対応することが必要なのではないか。かかりつけ医がない方への支援を検討してほしい。
- ・担当課が欠席のため、意見への対応は事務局預かりとしたい。

(2) 審議の概要

<施策の方向性Ⅰについて>

(施策1. 衛生的な生活環境の保全について)

- 食品ロスへの対策の充実
- 箱型のごみ集積所をもっと増やしてほしい

(施策2. 自然環境の保全について)

- 廃プラスチック類等の海洋ごみ対策についての記述を追加

(施策3. グリーン・循環型社会の構築について)

- 家庭ごみの分別の細分化を検討

<施策の方向性Ⅱについて>

(施策4. 交通安全対策の充実について)

- 子どもたちの年齢に応じた地域防災への参加方法を検討〔施策1. 地域防災の充実〕
- 飲酒運転の根絶をしっかりと進めてほしい
- 安全な通行を妨げる道路の雑草や信号を見づらくする樹木などについての有効な対策を検討
- 道路の歩道の除草は、地域で行っているごみ拾いのように町内会に協力してもらうことも検討

(施策5. 消費生活の安心確保について)

- 高齢者のデジタルデバインド問題について、消費者講座の実施等によるデジタル教育の推進を文言として追加
- 高齢者向けスマホ教室など、トラブル対策だけでなく、デジタル化に対応できるようになる方法を教えるような取組の実施
- 消費生活相談員に関わる資格取得の支援や相談内容の充実を進める

<施策の方向性Ⅲについて>

(施策2. 疾病予防・重症化予防の推進について)

- 新たな感染症が起こった際の対策を現在の感染症の危機を踏まえて記述することを検討

(施策3. 地域医療の充実 について)

- かかりつけ医のいない健康な人に対応する地域医療の在り方を検討

■ 「政策4」専門部会

日 時：令和3年8月31日（金） 14：00～14：45

場 所：八戸グランドホテル2階 エメラルド

出席委員：6名

堤静子委員（部会長）、浮木隆委員（副部会長）、北山博秋委員、工藤恵美子委員、
中谷美由紀委員、東山国男委員

欠席委員：0名

ワーキンググループ：市民連携推進課（上柿主幹、佐藤副参事・冷水副参事）、産業労政課（巴主幹）、福祉
政策課（西村副参事・三浦主幹）、生活福祉課（中村副参事）、高齢福祉課（原参事・
鈴木副参事）、障がい福祉課（町井副参事）、国保年金課（野田副参事）、介護保険課
（鈴木副参事）、学校教育課（根森主査）、教育指導課（石澤副参事）

事務局：政策推進課（見付主幹、小田副参事）
（株）エックス都市研究所 小市

次 第：

- 1 開 会
- 2 審議案件
○第7次総合計画（二次案）の第5章について
- 3 その他
- 4 閉 会

2 審議案件

（1）審議案件に関する主な意見：

<施策の方向性Ⅰ「支え合う地域をつくる」について>

（施策3.障がい者支援の充実について）

- ・「市民」の役割分担は、もう少し表現を工夫できないか。障がい者の方々も市民なので、分け隔てない表現、みなが全員で、お互いに、というニュアンスになると良い。
- ・健常者から見て、障がい者の理解、というように捉えられる表現だと思う。ユニバーサルな感じで表現できると良い。
- ・行政機関の役割として、障がい者団体の育成という観点は必要ないか。現在の記載は行政対一障がい者であるが、各福祉団体が存在していることで障がい者福祉の向上が図られていると思う。個別障がい毎の団体を指すことなく、障がい者団体の育成について触れても良いのではないか。
- ・各障がい者団体が健全に発展するということは、八戸市の障がい者福祉のレベルが向上することになる。支援は、資金面だけということではなく、色々な側面からの支援ということである。
- ・実際、障がい者団体の育成という市の取組はあるのか、また“支援”ということを入れることに問題はあるか。
- ・“育成”という言葉に問題があるならば、“支援”という言葉でも良いと思う。

（施策5.コミュニティの振興について）

- ・民生委員が名簿を持っていて、障がい者の方や一人暮らしの高齢者の方を見守っている。また、市から受けている相談員も対応している。そうであれば民生委員と相談員が一緒に行動する、情報交換する、といった趣旨の言葉を入れた方が良いのではないか。
- ・「市民」の役割でも、積極的な参画、といった一方的な取組が書かれているが、相談や支援といったことも実際には行われている。
- ・「事業者等」の役割でも、町内会等の記載があるが、各種団体との連携、交流のようなことがないと活性化していかないと思うので、そのような文言が必要ではないか。
- ・高齢者を集めてサロン等を開催し、スポーツやマジックショーをやってきたが、コロナ禍で開催ができない状況にある。せめて高齢者を集めて体を動かすサロンだけでも開催できればという要望も出ている。しかし9月一杯は公民館が利用できないため、サロンを開催し、スポーツをして、終わった後に昼食を共にするという、高齢者が楽しみにしていた催しがなくなってしまった。
- ・“連携”が入るとするのは、社会福祉法人という立場としても、地域毎にサロンの運営ができる場所、できないところがあるので、活用する1つの機関・団体として、高齢者が施設の母体である社会福祉法人を活用して行って良いことを知らせる意味では記載しても良いと思う。

<施策の方向性Ⅱ「社会参加しやすい環境をつくる」について>

(施策1.市民活動の促進 について)

- ・前回資料では進行管理指標にNPO団体数があったと記憶しているが、それがなくなってしまっているのではないか。市民活動サポートセンター登録団体数も指標として関係があるのでは、という意見を申し上げたが、NPO団体数を削除する、ということではない。NPO団体数も大切だと思う。

(施策2.高齢者の活躍促進について)

- ・「事業者等」との役割に“雇用”“雇用機会”という言葉を入れても良いと思う。高齢者が働いて適切な対価を得られるということは大切な視点である。“社会参加の場の提供”という言葉に“雇用”という趣旨も含まれているかもしれないが、あえて別立てで見せたい、という思いがある。
- ・雇用となると政策2の経済で考えることではないか。施策4の雇用・就業の促進で記載してもらうのが良いと思う。就労、賃金や対価という視点が入るのであればその方が良い。
- ・事業者の役割として、積極的な高齢者の雇用促進、雇用支援のような視点を追加してはどうか。

(施策3.障がい者の社会参加の促進について)

- ・役割分担の内容は、今やっていることではあるが、一般の参加者で人数が不足する場合は介護を理由に人を増やしている。ただし、通常、一般の人は障がい者支援活動に参加してこない。我々の団体は、市が折を見て説明してくれたりするので何とかなっている状況である。行政の役割として“障がい及び障がい者への理解の促進”とあるが、理解を深めるには、障がい者支援活動に参加しないと、本質は理解されないと思う。
- ・情報発信も大切な視点であり、市の広報を活用することなども考慮して、趣旨が伝わる記載があると良い。
- ・市民の役割にある“障がい者の社会参加に対する理解”は、もう少し文面を工夫できると良い。

(施策4. 男女共同参画の推進について)

- ・行政機関の役割にある「男女共同参画意識の啓発」では、全ての年代が入っていること、特に若い世代が大切で、全ての年代で啓発するということが良いと思う。
- ・子どもの頃からの教育が一番影響を及ぼすので、そこに一番力を入れて欲しい。啓発には大変時間がかかることを認識してほしい。
- ・オリンピック開催前もこの問題があり、理事を大幅に増やした。行政も女性の役職の方を増やしている。審議会の女性委員の割合が3割以上などの指標があったと思うが、それは男女共同参画の計画で示しているの、総合計画では記載しなくても良いのか。

(2) 審議の概要

<施策の方向性Ⅰについて>

(施策3. 障がい者支援の充実について)

- 障がい者の方々も市民なので「市民」の役割は、分け隔てなく、みなが全員で、お互いに、というニュアンスになると良い。
- 「行政機関」の役割として、障がい者団体の“育成”という観点は必要ではないか。“育成”という表現が難しければ“支援”でも良いと思う。

(施策5. コミュニティの振興について)

- 障がい者や高齢者の方々の見守りという観点から、民生委員と相談員が連携する、情報交換するといった趣旨の文言を入れた方が良い。
- 「市民」の役割は“積極的な参画”という主体的な取組となっているが、実態として“相談”や“支援”といった取組が行われている。
- 「事業者等」の役割は、各種団体との連携、交流がないと、活性化しないのではないか。

<施策の方向性Ⅱについて>

(施策1. 市民活動の促進について)

- 前はあったNPO団体数が削除されているが、指標としては大切だと思う。

(施策2. 高齢者の活躍促進について)

- 政策2 施策4との関係もあるが「事業者等」の役割に“雇用”“雇用機会”という言葉を入れても良いのではないか。
- 「事業者等」の役割として、積極的な高齢者の雇用促進、雇用支援のような視点を追加してはどうか。

(施策3. 障がい者の社会参加の促進について)

- 「行政」の役割に“障がい及び障がい者への理解の促進”とあるが、理解を深めるには、障がい者支援活動に参加しないと、本質は理解されない。「市民」の役割にある“障がい者の社会参加に対する理解”とあわせて、記載を工夫できないか。
- 市民、事業者等の理解を得るためには情報発信も大切な視点であり、「行政機関」の役割で記載があると良い。

(施策4. 男女共同参画の推進について)

- 全ての年代、特に子どもの頃からの教育が大切で、そこに最も力を入れて欲しい。
- 審議会での女性委員割合など男女共同参画基本計画で示している指標は、総合計画で反映しなくても良いか。

■ 「政策5」専門部会

日 時：令和3年8月31日（火） 14：00～15：00

場 所：八戸グランドホテル5階 サファイヤ

出席委員：3名

圓山重直委員（部会長）、武山泰委員（副部会長）、石橋充志委員

欠席委員：2名

橋本敏子委員、西川弥生委員

ワキンググループ：南郷事務所（寺沢副所長）、まちづくり推進課（和田副参事）、観光課（佐々木副参事）、高齢福祉課（石木田主幹）、市民課（関口副参事）、下水道業務課（小泉参事）、下水道建設課（田邊参事）、下水道施設課（壬生参事）、港湾河川課（小泉参事）、道路建設課（大川副参事）、道路維持課（荒谷副参事・蛭名副参事）、建築住宅課（細谷地副参事）、都市政策課（石橋副参事・上館副参事）、市街地整備課（田鎖副参事・阿部主幹）、駅西區画整理事業所（岩谷副所長）、公園緑地課（山田副参事）、建築指導課（尾崎副参事）、学校教育課（平脇副参事）、交通部（中村副参事）、八戸環境クリーンセンター（冷水副参事）、水道企業団（植村副参事）

事務局：政策推進課（毛呂主査、盛田主事）
（株）エックス都市研究所 田中

次 第：

- 1 開会
- 2 審議案件
○第7次総合計画（二次案）の第5章について
- 3 その他
- 4 閉会

2 審議案件

（1）審議案件に関する主な意見：

<施策の方向性Ⅰ「持続可能な「まち」の基盤をつくる」について>

（施策3. 道路・橋りょうの整備について）

- ・道路・橋りょうの整備について、本市の物流拠点としての機能を強化する観点から施策を追加してほしい。
- ・本市は、フェリーふ頭が充実して北海道との物流が強固になる。三陸自動車道へ接続できれば、無料の高速道路で、冬場に雪も降らないので物流が強固になる。
- ・陸上物流について、高速道路は早いですが、一般の道路は渋滞等があると時間がかかるため、フェリーふ頭や、三陸自動車道、東北自動車道に接続する道路を重点的に整備して、スムーズな物流網を形成していく施策に長期的に取り組んではいかがでしょうか。
- ・国の支援をもらいながら、高速道路から港湾などの物流拠点を連絡する道路網を整備することを盛り込んでほしい。物流拠点としての機能の強化が図れると思う。

（施策5. 公園・緑地の整備について）

- ・公園は地域を写す鏡と言われるぐらい、公園の維持管理は地域活動のメインになるものだと

考えている。

- ・大規模な公園は、指定管理制度や包括管理により管理がされ、それ以外は、地域で管理が行われている。地域で管理が難しくなった公園については、市に年数回除草をしてもらっているが、草が生えて使えない状態の公園もみられる。市民が利用したいときに利用でき、市民の公園として認識できる公園であってほしい。現在策定中の緑の基本計画の範ちゅうかもしれないが、このような趣旨を盛り込むことはできないか。そのためには、協働の考え方のもと、市民が負担の少ない形で関わりや愛着を持って公園を活かしていける環境づくりが必要ではないかと思う。
- ・街路樹についても、地域では管理できなくて困っている。樹木が大きくなりすぎて、景観にも影響している例がある。地域が管理に参加しやすいなど、地域の緑との付き合い方が、重要になってくると思う。
- ・地域コミュニティとの連携を密にし、町内より管理を返還された公園についても樹木の適切管理や除草等、しっかりと予算措置をし、まちづくりの基盤を整備し、地域の人がいいつでも使えるように整備する旨盛り込んでほしい。

(施策6. 墓地・斎場の整備について)

- ・埋葬の方法に樹木葬があるが、市内ではできないので、近隣の市町村で埋葬している例がみられる。
- ・墓地の生前受付を開始したことは、市の取組として進んだと思うが、少子化の中で、お墓を持ちたくないというニーズにどのように対応していくのか。死後に不安がないことは、自治体を選ぶ上での理由になってくるのではないか。市民にとっては肝心なことだと思う。
- ・UIJ ターンにおいても、墓をどこに持つかが関心ごとの一つとなっている。UIJ ターンを受け入れるにあたって、不安がないような環境を整えることが重要ではないか。
- ・今の時代にあわせた、墓地の在り方の検討が必要な時期に来ていると思う。
- ・葬式もやらない、墓石もいらぬ、という傾向が強まっている。
- ・樹木葬を含めた、将来の墓地の在り方について検討する趣旨を入れることが考えられる。死後についてもケアすることは、UIJ ターンする人にとっては、安心できると思う。
- ・公共のお墓に入りたい、樹木葬がいいなど、多様な要望に応えることが重要だと思う。
- ・144 ページ、151 ページに市民ニーズに対応した墓地というのがあるが、その部分にそういった文言を追加してほしい。

(脱炭素社会について)

- ・冒頭の将来展望の中で、グリーン社会について盛り込まれていることは良いと思うが、2050年までに脱炭素社会を目指すということが、総合計画全体から抜け落ちているように思う。
- ・例えば、政策5の都市整備について、本来的に大規模施設は整備する段階で、“ZEB (Net Zero Energy Building)”を考慮すべきであったと思うが、既存の大規模施設のあり方について、脱炭素の観点から、もう少し書き加えると良いのではないか。
- ・ゼロエミッションを見据えた取組が重要との指摘だと思う。脱炭素社会実現の貢献が求められる中で、炭素のエミッションを意識した施設整備の観点について記述できないか。
- ・新たに政策として柱を立てる必要はないと思うが、脱炭素の推進は、市としても力を入れていかなければならない。施策横断的な取組が必要になってくると思う。
- ・施策1の良好な市街地形成等のどこかの“目指す姿”に、書き込むことは考えられるのではないか。
- ・将来都市像の中に、書き加えることはできないか。

- ・政策3の施策3に「グリーン社会・循環型社会の構築」について記述している。(事務局)
- ・市街地形成においても重要なことなので、グリーンや環境を意識した施設整備について書き加えることが必要に思う。

<施策の方向性Ⅱ「地域内外の移動手段を確保する」について>

(施策1. 地域交通の確保について)

- ・バス事業が、コロナで厳しかったと聞いているが、ICカード(ハチカ)の導入など、利用環境はかなり改善されてきている。交通弱者への配慮が良くなってきている。今後とも、頑張ってもらいたい。
- ・ただ、バス停の管理があまり良くなく、冬場に凍ってしまっている箇所もあるため、さらに踏み込んで乗降時のサービス向上に取り組んでほしい。滑ってけがをしているのは、高齢者などの弱者なので、とてももったいないと思う。
- ・中心街の主要なバス停については、ロードヒーティング、赤外線ヒーターの設置などに取り組んでもらえると良い。

(施策2. 広域交通の確保について)

- ・高速交通網は、八戸市の生命線といえる。三陸自動車道をどのように有効活用していくかが重要になるのではないかと。温暖化により穀倉地帯になる可能性がある北海道と、苫小牧からフェリーで八戸を介して三陸自動車道に入り、仙台、東京方面につながる。
- ・人については新幹線、物流についてはフェリーや高速道路を活かす、交通拠点としての整備について入れてほしい。
- ・三沢空港は八戸市から少し遠い。地域航空という点から言えば、リージョナルジェット(名古屋、西日本方面や北海道などにアクセスできる比較的利用しやすい小型のジェット機)の導入が考えられる。空のネットワークも強化するという文言が入ると良い。
- ・三陸自動車道を有効に活用すると、久慈、北岩手ぐらいまでは経済圏になる。広域とまではいかない中域圏で、交通網を強固にすることを追加してはどうか。
- ・陸海空の中で、バスでの移動に人気があるようだ。いろいろな交通手段が選択できる中でも、バスの利便性を活かしていくと良いと思う。高速バスが便利であることも、八戸市の優位性であるので、活かす方向で記述できると良い。
- ・高速バスは料金も安いので、利用する人も多い。物流をはじめ、移動という側面での八戸市の特徴を評価して、活かしていく方向が記述できると良い。大規模商業施設などをバスで連絡することなども考えられる。ただし、バスは経済原則のもとで運行され、利用客がいなければ成り立たない点については留意しなければならない。

(新たな移動・交通の取組について)

- ・コロナ禍で、テイクアウトのための交通が増えている。自動運転といった技術開発も進んできている。移動手段のならば、新しい交通について新たな施策を追加して、物流機能の強化やラストワンマイルなどの観点から、何か書き加えたらどうか。
- ・方向性2の中に施策3として入れれば落ち着きが良いのではないかと。
- ・ハチカについては、重要な事業なので、導入も大変だったと思うが、活用する観点を盛り込んでどうか。炭素排出量の観点からも、公共交通の促進・維持管理というのは重要だと思う。
- ・将来展望として、ICTとかSociety5.0をうたっているため、これらについて、地域交通の観点からも言及してほしい。

- ・北インターの工業団地と、中心街を結ぶ、ICT を活用した予約制の直通交通網について盛り込んでもらえると良い。ICT を活用した交通手段のロールモデルとして検討することが考えられる。
- ・病院と中心街との連絡について、ICT を活用すれば適切な時間で移動サービスを提供できるようになる。携帯端末でもお年寄りでも扱いやすいものが出回っている。ICT を活用した高齢者にやさしいネットワークについて検討する、という趣旨を盛り込んでどうか。

(2) 審議の概要

<施策の方向性Ⅰについて>

(施策1. 良好な市街地形成について)

○脱炭素社会の実現に向けて、施策連携のもとに市として注力していことが求められる。公共施設整備や都市整備についても、脱炭素の観点から取り組んでいくことが重要。

(施策3. 道路・橋りょうの整備について)

○フェリー心頭の充実や三陸自動車道との接続を見据え、心頭や高速自動車道に接続する道路網の重点的な整備を行い、円滑な物流網の形成に取り組むことが重要。

(施策5. 公園・緑地の整備について)

○地域の鏡ともいえる公園の維持管理に向けて、市民が管理に参加しやすい環境づくりが必要。

(施策6. 墓地・斎場の整備について)

○死後の墓守の不安、墓地・埋葬へのニーズの変化を捉え、墓地の在り方について検討していくことが重要。

<施策の方向性Ⅱについて>

(施策1. 地域交通の確保について)

○ハチカの導入など、バスの利用環境は改善していきっている。引き続き取り組んでほしい。

○冬場に凍結するバス停があり、高齢者等が転倒する危険がある。主要なバス停にはロードヒーティングや赤外線ヒーターの設置などの対策が考えられる。

(施策2. 広域交通の確保について)

○本市は、陸海空の移動手段が選択できる特徴がある。特に三陸自動車道を有効活用し、八戸都市圏を超え、久慈市周辺を含めた中圏域での交通網の形成が可能である。

○高速バスの利便性が高いことも本市の特徴である。移動という側面から本市を評価し、活かしていくことが重要。

(新たな移動・交通の取組について)

○ラストマイルやテイクアウトといった新しい交通や物流に着目した施策について柱建てが考えられる。

○ICT の活用や Society5.0 の観点から、地域交通について言及することが考えられる。ハチカの有効活用をはじめ、北インター団地と中心街を連絡する直通交通網や、病院に連絡する高齢者にやさしいネットワークなど、ICT を活用した新しい移動サービスを提供できる可能性がある。

■ 「政策6」専門部会

日 時：令和3年8月31日（火） 14：10～15：20

場 所：八戸グランドホテル2階 グランドホール

出席委員：5名

町田直子委員（部会長）、塚原隆市委員（副部会長）鶴飼恵美委員、岡本信也委員、長谷川明委員

ワーキンググループ：市民連携推進課（春日副参事）、広報統計課（古町室長）、南郷事務所（高山主幹）、観光課（加賀主査）、農業経営振興センター（和島主幹）、水産事務所（秋山主査）、教育指導課（松長副参事）、社会教育課（横山主査兼学芸員）、総合教育センター（石井主任指導主事）、是川縄文館（小久保副参事）

事務局：政策推進課（須藤主査、古里主幹）

（株）エックス都市研究所 佐久嶋

次 第：

- 1 開会
- 2 審議案件
○第7次総合計画（二次案）の第5章について
- 3 その他
- 4 閉会

2 審議案件

（1）審議案件に関する主な意見：

＜施策の方向性Ⅰ「八戸の認知度と知名度を向上させる」について＞

（施策1．八戸ブランドの確立について）

- ・八戸ブランドとして様々な商品を開発されて魅力を伝えていただくというのはうれしいことである。主体的に実施している人の視点、魅力を発信するという施策の中にあるが、産業の発展という視点で、例えば、進行管理指標に「八戸ワインの製造本数」があがっているが、ワインを製造している人とコラボしていかないとこの成果は挙がらない。そのためには、単独で成果が生まれる仕組みではなく、どこかと連携するからこそ八戸ブランドが生まれると思う。
- ・目指す姿には、「市民総出となった八戸ブランドの創出」など、そういう視点を加えていただきたい。単に出来上がったものを売り出すのではなく、売り出す方が苦勞して生み出したブランドなので、それを市民がこぞってサポートできるような仕組みづくり、そういう視点を加えていただきたい。
- ・進行管理指標の「商標権に関する相談件数」は総合的な指標になっているが、「八戸ワインの製造本数」や「八戸前沖さばのアイデア料理コンテスト作品数」となると、その他の商品の統計はとっていないと思われる。実際はとっていると思う。
- ・同じようにナニヤドヤラ廻道ふるさとフェスタの入場者数や来館者数という情報でなく、例えば、博物館や美術館の来館者数などは数値をとると思うので、そういった指標をみんなで共有できる仕組みづくりを行っていくことを念頭に進行管理指標を設定するとよいのではないか。この場合、進行管理指標は「入場者数を調べることができる施設数」といった視点

の方が、私たちは前に進めると思う。

- ・施策の方向性で「価値を高める」という文言が追加された。その観点でいくと、施策1 八戸ブランドの確立では、価値を高める視点が少ないのではないかと。魅力を伝えるのは「PR」や「発信」という文言で言及されていると思うが、新たに加えた価値を高める観点から、どのように価値を高めていくかという施策があるとよいのではないかと。
- ・八戸ブランドは、県外や首都圏の人々の中で知名度が上がるのが八戸ブランドの確立になるのではないかと。進行管理指標についても、現状は地元の指標が強いが、県外でも計れる指標があったほうがブランドの確立を管理しやすい、納得しやすいのではないかと。
- ・市民の役割分担に「八戸ブランドの再認識」とあるが、これは市民が既に知っていることが前提となっている。果たして既に知っているというところからスタートしてよいのか引っかかる。
- ・(4) 施策の内容に、「観光コンテンツの活用や広域連携などを通じた効果的な観光資源のPR～」とあるが、広域連携を含めた話をしていいのか、総合計画として広域連携を入れて問題ないか。VISIT はちのへでは、広域連携で観光を推進している中で、そういう意味では組み込みたいものはたくさんあり、ただ、それを入れるのは方向性が違うかなと思う部分があるため、確認したい。
- ・Yahoo やその他の検索データを調査しているが、「八戸」というキーワードで出てくるのが、「館鼻岸壁朝市」が断トツで多い。八戸というキーワードで注目してもらっているものに、触れなくてよいのかという点が気になる。
- ・目線として、内を向いているのか、外を向いているのか。指標にあるワインやサバの数というのは内、市民に対しての意識で、ブランド力を高めるとするのは、ここでいう、発信、魅力を高める、認知度・知名度を高めるなどは、外に対しての意識で、外に対してブランド力を高めていくとなると、もう少し外向きの数値を計れる指標があったほうが良いのではないかと。
- ・八戸ブランドって何という、認識や理解されているのかというのが。八戸と名前をつければ何でも八戸ブランドではなく、県外や世界に売っていきこうとしたときに、同じような商品がある中でも、差別化されて、これが八戸、八戸にしかないというものをセールスしていかなくてはならない。価値を高める、連携して何か生み出すという意見も先ほどありましたが、そういったことで本物のブランドに育てあげていくことが認知度・知名度につながっていくと思う。

(施策2. 名勝・文化財等の保存・整備・活用について)

- ・世界遺産登録された縄文遺跡群がポイントになると思うので、是川遺跡についてももう少し盛り込んだほうがよいのではないかと。
- ・理解しにくいところとして、(4) 施策の内容に、「その本質的価値について」とあるが、それがどういうものなのかがこの文からは読み取りづらいと思うので、もう少しそしゃくして記載した方がよいのではないかと。
- ・文化財については保存や整備はよくされているが、活用は現実にはなかなか難しいのではないかと。観光客に見ていただくというのはできると思うが、まずは市民が市民の宝として理解する教育が重要であり、そういった活動を「活用」の中に入れていただきたい。目指す姿に「市民はもとより」とあるが、小学生から大学生までの地元にいる学生に文化財を見ていただき、そこから地域を考えていくような教育に反映する仕組みづくりをこの施策に入れることを検討できないか。
- ・小学生が遠足などで博物館などに行くということが日常的に行われ、八戸にはこんなすごい

ものがある、こんな歴史があるということ、自信を持って人に話せるようになってほしい。これによって、八戸ブランドの確立も地についた形で施策を展開できるのではないか。文化財を保存・整備されているのは教育の方々が中心となっていると思うので、ぜひ学校と連携した実践について、記載の検討をお願いしたい。

- ・是川遺跡もそうだが、県内を見ても櫛引八幡宮の国宝があったり、実は八戸の中にいろいろある。教育機関でそれを連携して回るということは実際に行っているのか。私自身も今の立場にならなければ、根城の城跡などいろいろなものを見なかったと思う。ただ、一度見ると「こんなにいろいろなものが八戸にあったんだ」と思った。まずはそういった史跡等をリストアップして、これだけあるというのを認識した方がよいのではないか。そうすると、コースを作って回ることができるようになると思う。
- ・某バス会社が、現在、コロナ禍で遠くに旅行に行くことができないので、圏域の住民対象に八戸の史跡を巡るツアーの企画提案をしてきたくれたことがあるのだが、そのリストをみると、私自身も行ったことのないものがけっこうあった。圏域の方々に見てもらう以前に、われわれ市民が見たほうが良いと思ったので、リストを作り、どのようなものがあるか出してみたほうが良いと思った。
- ・文化財は教育委員会の管轄で保全・保存を行っているが、活用となると観光の分野になると思う。今後事業展開をしていくとすると、教育委員会と観光部局で同じような事業をする可能性があるので、横ぐしを差したように連携した事業展開ができることより効果的になるのではないか。
- ・(3) 役割分担に市民の部分に、「文化財の魅力の発信」とあるが、いきなり発信は難しいのと思う。まずは純粋に価値を感じて楽しむこと、こんなものあるんだと思うこと、つまりは、学び、楽しみ、感動することが市民の重要な役割だと思う。
- ・若者が地域に定着しないことが課題となっているが、大学生の半数以上は八戸の外から来ており、中には県内の国宝がここにしかない、わざわざ見に行く学生もいる。そういう気持ちを起こす人を多くしていく活動をすれば、八戸を離れたとしても、八戸に愛着や誇りを持つ学生の育成につながるという意味でも文化財や史跡は役に立つものだと思う。教育機関と連携を大切に、活用されることを期待したいと思う。

<施策の方向性Ⅱ「八戸の価値を共有し国内外に広く発信する」について>

(施策1. 地域の情報発信の充実について)

- ・市民の役割分担に「SNS 等による情報発信」とあるが、情報を発信してほしいのであれば、(2)の進行管理指標はシェアになるのではないか。「八戸市公式 SNS の登録者数」「SNS から市ホームページへのアクセス数」だと、ただ情報を見ているだけであり、発信しているわけではないと思う。追加してはどうか。
- ・施策1と施策2を行き来するが、どちらかというとなら施策1は発信する手段、施策2は発信するものそのものと思っており、そのように考えると施策1「地域の情報発信の充実」とあるように、ツイッターやラインなどはあると思うが、手段は多い方がよく、頻度や質などが求められると思うので、様々な情報発信の手段に関する内容をもう少し入れた方がよいのではないか。どんな情報を発信するかは施策2になると考える。
- ・進行管理指標の「八戸ポータルミュージアムの入館者数」は指標として違和感がある。
- ・「発信する側」と「発信するもの」の仕分けは、明確にしておいたほうがよい。
- ・SNS での情報発信という点で、情報発信したい市民であればよいが、無理やりさせられている市民はいずれ発信がなくなる。発信したいと常に思う環境を作っていくことが重要である。

- ・高校や大学では授業の成果として SNS 等で情報発信することを行っている。大学生では、継続性は乏しい場合も多いが、食べ物やお祭りなどのコンテンツを発信するサイトを作成することも行っている。
- ・このような動きもあるので、この情報発信の役割分担の市民のところに、「学生による情報発信の支援」などをいれていただければありがたい。
- ・進行管理指標に、「SNS から市ホームページへのアクセス数」があるが、例えば、博物館のページへのアクセス数だとか、八戸三社大祭のコンテンツが入っているところへのアクセス数だとか、会議などをやらないとアクセス数を公表しないというのではなく、こういった情報をみんなで共有する社会、みんなで利用できるような環境の構築が重要ではないか。大学生などが、情報をもとに分析をしてそれを市民に還元する、ということなども起こりうると思う。そういった情報をみんなで共有できる仕組み、プラットフォームをつくることが重要であると思う。
- ・情報発信の捉え方が狭いと感じる。SNS や HP を取り上げているが、マスコミを使った情報発信の方法もあるし、メディア、媒体は色々ある。もう少し、他の媒体についても触れるべきではないか。年齢層によって効果的な媒体もあるので、年齢にあった情報発信を考えていくべきでだと思う。
- ・進行管理指標は、全部受け皿ばかりの指標なので発信側の指標も必要ではないか。例えば、八戸大使がいるが、どれくらいの発信をしているかとか、メディアに掲載された数とか、そういう指標が必要ではないかと思った。
- ・本来、施策 1 と 2 は反対の方がわかりやすいと思う。しっかり発信するものがあって、それをどうやって発信していくかのほうが個人的にじっくりくる。

(施策 2. 観光地域づくりの推進について)

- ・現状書かれているのは八戸市だけのことであるが、今後は八戸市だけの観光という考え方では進んでいけないと思うので、広域で考えていく必要があると思う。種差のトレイルであっても、階上まで続いていて、一体的に PR しているのでそれができなくなってしまう。隣の町村とも連携するような施策を考えていかなければいけないのではないかな。
- ・観光地域づくりの推進では、いろいろな来館者数が挙がっており、市の施設だから挙げられているのかもしれないが、館鼻岸壁朝市、八食センター、マリエントなど委託で運営されている施設もすべて情報が公開され、共有できる社会がよいと思う。民間の方にも協力してもらえればと思う。
- ・施策 1 と施策 2 の内容が混ざっているように感じる。目指す姿に「自然や食、祭りなどを始めとした当市の魅力や知名度が高まり～」とあるが、情報発信があつて知名度が高まると思うので、情報発信の方の目指す姿のように感じる。
- ・「観光地域づくり」は地域の充実度が重要であり、(4) 施策の内容も、「～知名度の向上を図るとともに～」とあるが、この内容も情報発信の方だと感じており、観光としての魅力ある地域づくりが充実していかないとそこは図れないように思う。
- ・そういう目線では進行管理指標も微妙だと思う。地域では人も重要であり、地域の魅力を発信する土台が構築されていくことが観光では重要であるので、施策 1 と施策 2 の両方でそういったものが欠けているように感じる。

(施策 3. 国際交流の促進について)

- ・この施策の国際交流は限定的な国際交流のように感じる。他の政策にも多文化共生が出てきたり、産業でも貿易が行われていたり、貿易をすれば海外から働き手も来ている。大学も国

際会議を行なったり、その時に海外から客人が来ると観光地を紹介して回るということだったり、単体で行われているのが実態かと思う。市の中でこのような様々な分野で行われている国際交流の実態を把握しきれていないのではないかと気になっている。

- ・実態として国際交流の状況を広く把握する部署が庁内の中で必要だと考えている。外国人がどう働いているか、貿易がどう動いているか、その交流相手として、姉妹都市がいいか、その他の都市がいいか、と統括する課があれば、大きな交流の中で、人の流れもでき、新たな都市との交流が始まるかもしれない。そこで、目指す姿として、「市内で行われている国際交流の活動を総括する・統括する」のような活動をぜひ行っていただいで、観光にも結び付けていってほしいと思う。
- ・観光の視点でいうと、インバウンドのデータをとっているが、外国人が八戸市に泊まった人数は、一昨年は約 24,000 人、昨年はコロナの影響で 3,700 人でした。インバウンドを観光のターゲットとして動いていたが、当然今は来ることができない中で、VISIT はちのへでは、イギリス、フランス、台湾に色々な資料を出して、向こうのマスメディアで何件表に出たかというデータをもっている。「国際交流」という表現だけだと、このような観光客を呼び込む内容が入らないのではないかと思う。
- ・青森県の状況をいうと、青森県観光連盟は、国際交流協会と一緒にやろうという流れになった。八戸市にも国際交流協会の担当部署があり、そのような部署等が VISIT はちのへと、インバウンドと一緒にやっていくというのも施策として必要でないか。DMO は観光のためのマネジメントとマーケティングを行う団体なので、マーケティングするためのデータをとっているが、これまでは観光だけだったが、それ以外と組んで、データを活用してもいいのではないかと思っている。そのような施策を新たに作っていくべきではないかと個人的には思っている。
- ・この施策 3 はコロナの影響が多分にあるのではないかと思う。来年度からの計画としてみたときに、行き来の制約がある中での計画実施になるのではないか。そうすると、現在の進行管理指標の派遣国数及び受入国数というのが伸びないという形になるのではないかと思うので、指標についてはコロナの影響下でも正しく測れる指標が盛り込まれてもいいのではないか。
- ・国際交流とインバウンドの誘客は何が違うんだろうと考えた時に、国際交流の目的は世界友好、世界平和に結びついていき、インバウンドの誘客は産業で、利益をあげていくことだとは思いますが、世界平和は観光につながることもあるし、観光 PR が国際友好につながることもある。いい形で循環していく関係を構築することが重要で、観光とかと同じ分野に国際交流が入っているのでそういった捉え方が大切だと思う。
- ・このように考えると、市民の役割として「国際交流活動への参加」、事業者等の役割として「国際交流活動の推進」とあるが、国際交流をする際に、自分の地域をよく知り、誇りを持ち、自分たちが八戸を背負って魅力を発信するという、そういう視点も今後あるとよいと思う。

(2) 審議結果の概要

< 施策の方向性 I について >

(施策 1. 八戸ブランドの確立について)

- 八戸ブランドとして、単に出来上がったものを売り出すのではなく、苦勞して生み出した商品を市民がこぞってサポートする仕組みづくりの視点を加えてほしい。〔施策 1〕

○八戸の価値を高める視点の施策が少ない。どのように価値を高めるかの施策があるとよい。

○進行管理指標は、来館者数などの指標をみんなが共有できる仕組みづくりを行っていくことを念頭に、「入場者数を調べられることができる施設数」といった視点の方がよい。

○進行管理指標は、県外で計れる指標があったほうがブランドの確立を管理しやすい。

○八戸ブランドは、連携して何かを生み出し、本物のブランドに育てあげていくことが認知度・知名度につながる。

(施策2. 名勝・文化財等の保存・整備・活用について)

○是川縄文遺跡についてももう少し盛り込んだほうがよい。

○施策に内容の「本質的価値」は、もう少しそしゃくして記載した方がよい。

○小学生から大学生までの地元にいる学生に文化財を見せて、地域を考えていくような教育に反映する仕組みづくりを検討することを入れてほしい。

○史跡等をリストアップして、まずはこれだけあるというのを認識した方がよい。

○教育委員会や観光部局などが連携した事業展開ができると効果的である。

○市民の役割は、いきなり発信は難しいので、まずは学び、楽しみ、感動することが市民の重要な役割だと思う。

○八戸に愛着や誇りを持つことに文化財や史跡は役に立つ。教育と連携して活動することを大切にして、検討してほしい。

<施策の方向性Ⅱについて>

(施策1. 地域の情報発信の充実について)

○進行管理指標は「八戸市公式 SNS の登録者数」だと SNS を見ているだけであり、発信しているわけではないと思う。シェアに関する指標を追加してはどうか。

○「地域の情報発信の充実」の手段は多い方がよく、頻度や質などが求められると思うので、様々な情報発信の手段をもう少し入れた方がよい。

○SNS で情報発信をしたいと常に思う環境を作っていくことが重要である。

○高校や大学の授業等での情報発信の取組を支援する内容も入れてはどうか。

○アクセス数や入館者数といった情報をみんなでも共有できるしくみ、プラットフォームをつくるのが重要である。

○情報発信の捉え方が狭い。メディア、媒体は色々あるのでもう少し SNS や HP 以外の他の媒体についても触れるべきで、年齢にあった情報発信を探していくべき。

(施策2. 観光地域づくりの推進について)

○今後の観光は広域で考えていく必要がある。

○施策1と施策2の内容が混ざっている。情報発信があつて知名度が高まると思うので、施策2の目指す姿が施策1の目指す姿のように感じるし、「観光地域づくり」は、魅力ある地域づくりが充実していかないと図れない。

○地域では人も重要であり、地域の魅力を発信していく土台が構築されていくことが観光では重要であるので、そういう目線の進行管理指標が欠けている。

(施策3. 国際交流の促進について)

○実態として国際交流の状況を広く把握する部署が庁内の中で必要。目指す姿として、「市内で行われている国際交流の活動を総括する」ような活動を行い、観光にも結び付けるとよい。

- 「国際交流」という表現だけだと、観光客を呼び込む内容が入らない
- 国際交流の部署と観光の部署が一緒になって、インバウンドをターゲットした取組を行っていくこともこれからの施策として必要。
- 指標にコロナの影響下でも正しく測れる指標を加えるとよい。
- 国際交流と観光がいい形で循環していく関係を構築する、そういった捉え方が大切である。
- 市民や事業者の役割として、自分たちが八戸を背負って魅力を発信するという視点もあるとよい。